

琵琶湖のコハクチョウ (1982～83)

三 宅 博

日増しに秋も深まり、北国では初霜、初雪の便りが聞かれる今日この頃となりました。各地の白鳥渡来地では、初認の日をひかえ、給餌・観察の準備に追われ、また、心待ちされる毎日だと思います。

さて、琵琶湖のコハクチョウに関しまして、堀野善博氏より、1982年11月より1983年3月までのデータを送付していただきましたので、ここにお知らせいたします。堀野善博氏は、会報№9でも琵琶湖のコハクチョウの情報をくださった方です。

まず一つは、琵琶湖の西岸新旭町での観察記録です。昨シーズンは、手紙の文面にもありますように、「手ナガエビ漁」の船が出漁するため、新旭町への接岸は少ないようです。資料①・②

しかし、1982年12月に琵琶湖東岸湖北町に41羽のコハクチョウが観察された情報を得ました。資料③
私も年明けに観察に行つてまいりました。1983年1月16日(晴)に、コハクチョウ43羽(内幼鳥3羽)の姿を認めることが出来ました。

これらの観察記録から推測いたしますと、1982年11月～1983年3月の昨シーズンは、琵琶湖の西岸(新旭町)より東岸(湖北町)の湖岸によく姿を現わすこと。

次に前シーズン(1981年～1982年)より渡来数が増加していること。

などが考えられますが、東岸(湖北町)の観察記録が少ないため(1982年12月と1983年1月16日)、推測の域を出ません。

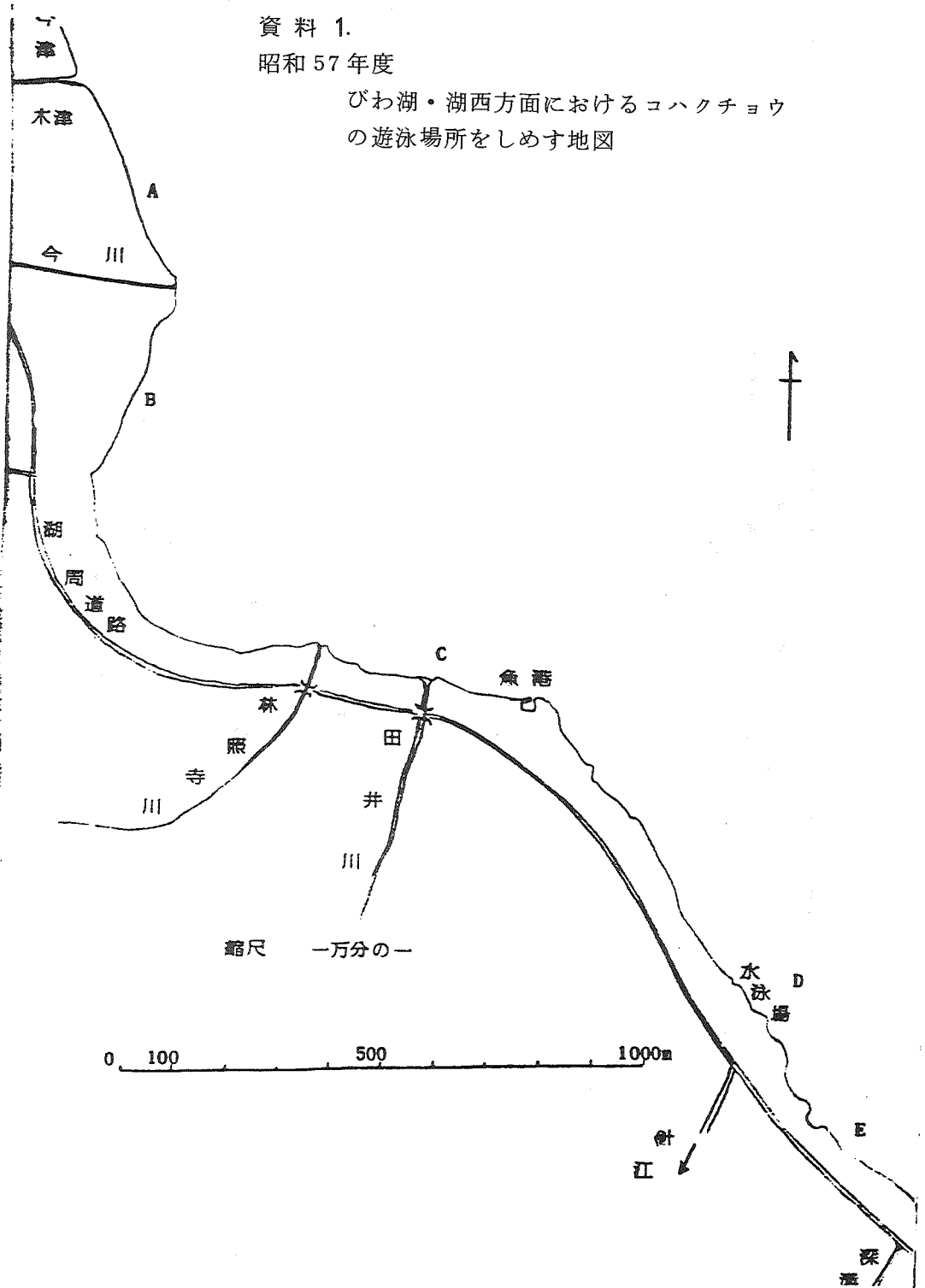
来シーズンは東岸(湖北町)の観察回数や観察ポイントを増やすことにより、琵琶湖のコハクチョウ渡来数をより正確に把握していきたいと思つています。

今後も堀野善博氏とも連絡をとり、又、会員の皆様にも、ご報告できることと思つています。

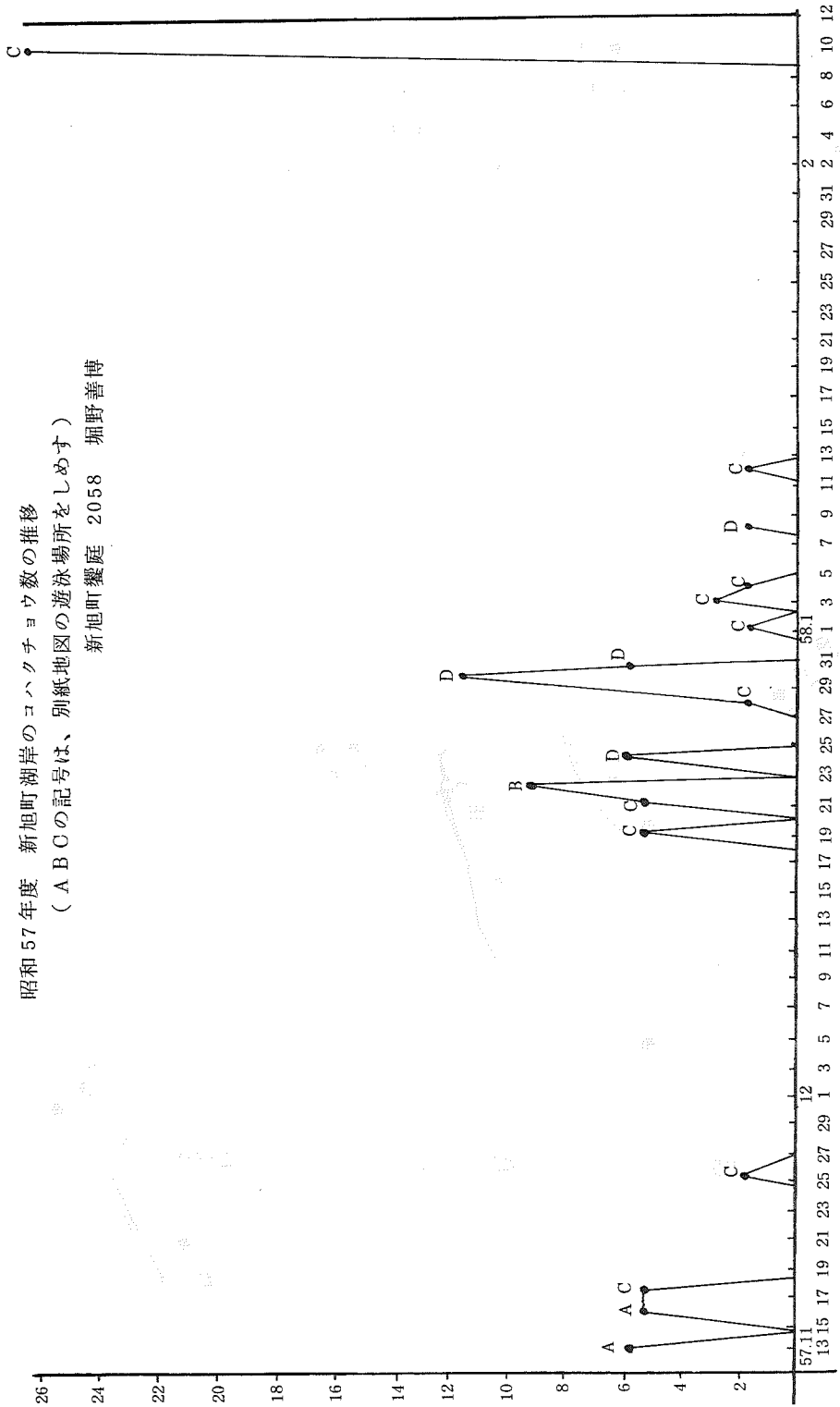
資料 1.

昭和 57 年度

びわ湖・湖西方面におけるコハクチョウ
の遊泳場所をしめす地図



昭和57年度 新旭町湖岸のコハクチョウ数の推移
 (ABCの記号は、別紙地区の遊泳場所をしめす)
 新旭町饗庭 2058 堀野善博



資料 2.

新学年が始まり御多忙の事と存じます。

冬鳥は殆んど北の国へとび去って、新旭町の湖岸も大変淋しくなりました。

3月末で、新旭浜園地の今年度の工事が完了しました。田井川川口附近に水鳥観察小屋が作られたので、今年の冬からの観察を楽しみにしています。

57年度のコハクチョウの新旭浜への飛来状態は別紙のとおりです。

11月13日に6羽A地点に来たので喜んでいたのですが、エビをとる漁船が往来したためか、去年より少数に終わりました。

ところが3月10日の朝から11日にかけて26羽がC地点に来ました。多分、南方から北へ帰る途中の休憩かと思います。同封の写真は3月10日午前11時頃撮影したものです。

草々

三宅先生

堀野善博

資料 3.

本日の滋賀県野鳥の会の探鳥会に右記の場所へ行きました。

その結果、「今西」の沖合約500mにコハクチョウ41羽を観察できました。

また、塩津浜の入江でヒシクイ74羽を観察しました。

新旭町の湖辺は、電話でお話していた様に11月13日から約1週間は5羽来ていましたが、入江一帯に「手ナガエビ」をとるため漁舟が数隻いつも作業をしているため、他の地域へ移動したものと推察します。

冬季で積雪が多くなれば、昨年のように新旭の浜へも来てくれることを期待しています。

その節には電話で連絡いたします。

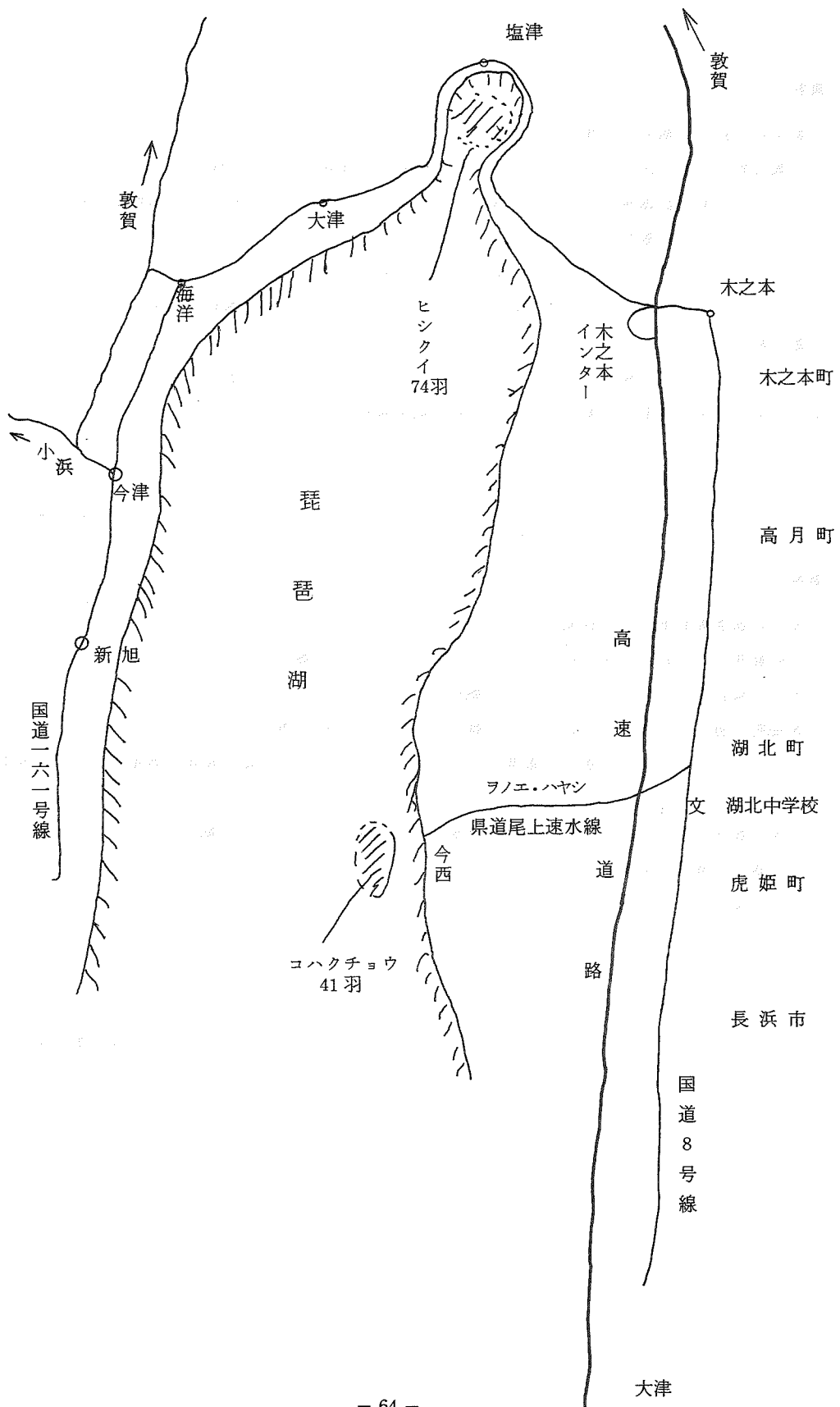
先づは御返事まで。

草々

57年12月12日夜

三宅博様

堀野善博





1983年1月16日琵琶湖東岸湖北町沖：三宅 博氏撮影



1983年3月10日琵琶湖西岸新旭町沖：堀野 善博氏撮影